

どんど焼き

今年も各地区で“どんど焼き”が行われました。どんど焼きは、無病息災・家内安全を祈り火の神様を祭るもので、小正月の伝統行事となっています。1月14日には若宮区でもこのどんど焼きが行われました。

夕方から夜にかけて行われることが多い行事ですが、若宮区では毎年昼間行っているとのことで、この日は稀な雨模様の天候でしたが、門松や竹にだるまなどを飾って作られたどんど焼きに点火すると勢いよく燃え上がり、竹の弾く音が辺りに響きわたりました。

昔は武智川の川原で、少年団が中心になってやりました。どんど焼きの火で繭玉(昔はおまいだま・おめえだまとも言い、一枝に奇数個つけるのが慣例)を焼いて食べ、一年の健康を祈りますが、繭玉には五穀豊穡・繭がたくさんとれるようにという願いが託されています。

若宮 細川 昭 氏 談

下火になった頃、色とりどりの繭玉を火にかざして焼きたてのアツアツをほおばると、一変に元気になったような気がしました。

会場では若宮ボランティアの会の皆さんによる豚汁のサービスもあり、寒さを吹き飛ばす暖かなひと時でした。



いよいよ点火です

